



年頭のご挨拶

内閣府沖縄総合事務局長
田中 愛智朗

令和5年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

昨年は、沖縄が長い米国統治を経て祖国に復帰して50年となる節目の年でありました。天皇皇后両陛下のご臨席を賜るとともに、三権の長にご列席いただき、復帰を祝う式典が東京と沖縄をリモートで結び、盛大に開催されたことは新時代を感じさせるものでした。

また、社会情勢に目を向けますと、我が国は、近年苦しめられてきたコロナ禍を乗り越え、社会経済活動の正常化が進みつつあり、この年末年始は、三年ぶりに、緊急事態宣言等の行動制限を行わずに過ごすことが出来ました。沖縄でも、基幹産業である観光産業については、全国旅行支援が再開したことなどもあり、コロナ禍からの回復が着実に進んでいるところがあります。これを起点として沖縄全体の活性化に繋げ、沖縄振興を更に進めていくため、本年も職員一丸となり力を尽くしてまいります。

沖縄の歴史・文化の象徴であり、沖縄観光における重要な資源の一つでもある首里城については、昨年、「首里城正殿復元整備工事起工式」を迎えることが出来ました。引き続き「首里城復元に向けた技術検討委員会」の委員の皆様の御協力を頂きながら、工事を進めてまいります。工事の過程においては、復元現場の見学スペースの整備や定期的なメディアへの公開等を通じて現場の進捗状況を発信し、沖縄観光の振興に貢献していきたいと思っております。

沖縄は観光産業の他にも、温暖な気候を活かした農業や地理的不利性の影響が比較的小さい情報通信産業など、今後も沖縄が飛躍するための様々なポテンシャルがあります。また、昨年は沖縄科学技術大学院大学(OIST)所属の研究者がノーベル賞を受賞するという大変喜ばしいニュースもありました。

沖縄は、成長著しいアジアの玄関口としての地理的特性や全国一高い出生率など、大きな優位性と潜在力を有しています。これらを活かして、「強い沖縄経済」を実現し、日本経済成長の牽引役となるよう、沖縄総合事務局としましても、引き続き様々な施策に取り組んでまいりますので、県民の皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして、希望に満ちた輝かしい一年となりますよう心からお祈りし、私の年頭の挨拶とさせていただきます。

